

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成25年11月〇日 (〇)

2 学年・組 第2学年〇組

3 指導事項 (1) 読むこと 才

文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)

言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

4 単元名 お話を紙しばいにしよう 「ニャーゴ」

5 言語活動 思ったことや考えたことを紹介し合って、本の小箱を作ること。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 互いの思いや感想を分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしようとしている。	○ お話の内容と自分の知識や経験、読書体験などを結び付けて、紹介している。	○ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。

7 単元に関して

○ 児童の状況

- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめること

本学級の児童は、読書を好む者が多く、読書タイムや隙間時間には、静かに一人で読書することができる。また、読むことが苦手な児童でも、本選別に時間はかかるが、静かに一人で読むことができる。しかし、自分の経験やこれまでの読書体験と結び付けながら読んでいる児童はまだ少ない。

「おてがみ」では、がまくんとかえるくんの友情について、自分のことと比べながら感想を書く学習を行っている。児童にとって「友情」とは身近なものなので、多くの児童はがまくんとかえるくんの友情について、自分の経験と結び付けて考えることができた。

「名前を見てちょうだい」では、不思議な世界で次々と起こる出来事について、感想をど

う書いたらよいか初めは戸惑う児童も多かった。しかし、「自分だったら・・・」、「えっちゃんの〇〇なところが、好き（かっこいい、すごいなど）と思います。だって・・・」というように自分の経験と結び付けて考えさせるような文型を提示することで、多くの児童が視点に沿って考えることができた。

これまで、読んだ内容から自分の考えを明確に表現する場の設定が少なかったため、戸惑う児童が多く見られたが、自分の考えを書いたり話したりする機会を増やし、指導しているところである。

- ・ 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
「名前を見てちょうだい」で、自分の考えを友達に紹介する学習を行った。多くの児童は、友達と紹介し合うことに意欲的に取り組んでいたが、中には相手に聞こえるように伝えていなかったり、聞き手もきちんと理解しながら聞いていなかったりと、受け答えができない児童がいた。また、紹介した児童に対して何か言葉を返すなど、何も反応を示さないで交流が終わってしまうというケースも見られた。これまで、「聞く」ことはできても「訊く（尋ねる）」ことの学習経験が少なかったためであると考えている。

○ 教材の価値

- ・ 教材文「ニャーゴ」

本教材は、児童が物語の面白さを感じられる展開となっており、身近な動物が登場することからも、自分の知識や経験と結びつけながら感想をもちやすいと思われる。また、物語の内容は、子ねずみを食べようとする猫と猫の恐ろしさを知らない3匹の子ねずみのお話で、猫の本意とは裏腹に4匹が親しくなってしまうという意外な展開となっている。よって、児童の感想が出やすいと考え、読書感想を交流するのにふさわしい教材であると考えている。

- ・ 本の小箱を作り、お話を読み、思ったことや考えたことを紹介し合うこと。

教材文から読み取ったことや考えたことなどを紹介するだけでなく、本の小箱にすることで、紹介し合う際により一層、相手を意識した話し方・聞き方ができることを期待している。

○ 指導の工夫

- ・ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて自分の思いや考えをまとめること

指導に当たっては、次のような工夫を行っていきたい。まず、学習の最初に「本の小箱を作って友達と本を読んで思ったことを紹介し合おう」というめあてをもたせ、相手意識・目的意識を明確にして児童の学習意欲の継続を図る。また、担任が、本の小箱を見せてどのように紹介するのか具体的に示すことで、イメージをもたせるようにしたい。

単元を通して並行読書に取り組みせ、自分でお話を読んでお気に入りの一冊を選び、小箱を作って友達と紹介し合う活動を取り入れ、児童が主体的に学ぼうとする意欲につなげたい。並行読書に際しては、テーマとして「友情」に焦点を当て、それに即した内容のお話を用意する。友達は身近な存在であり、どの児童も様々な経験をしてきているので、自分のことと結び付けて、思いや考えをもちやすいものであると考える。児童には、「友だちのことをかんがえる本」として集めた8冊を読むことを課題とし、本のリストを用意して、読んだ本の感

想を一言書くようにする。

本の小箱作りに際しては、「題名」「作者名」「あらすじ」「登場人物」「感想カード」を視点とし、自分の考えをもつ前に教材文の内容をつかませるようにしたい。また、「感想カード」に、テーマである「友情」について考えさせる前に、ステップとして「子ねずみたちのねこに対する言動」「最後にねこが『ニャーゴ』と言った気持ち」について考えさせたい。子ねずみたちが、ねこにしたこと・言ったことをどう思うか、ねこがどう変わっていったのか、最後の「ニャーゴ」に注目させて猫と子ねずみの友情について自分の考えをもちやすいようにしたいと考えている。学習を進めていく中で、少しずつ小箱が完成していくので、児童が毎時間を楽しみながら主体的に取り組むことができると考えている。

- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
交流の場面では、「感想カード」に書いたことをもとに、自分の考えや思いを紹介できるようにしたい。また、児童の実態も考慮し、ペアで交代しながら交流できるようにしたい。そして、紹介される側は、うなずいたり返事をしたりすることができるようにし、相手の考えをしっかりと受け止められるようにする。そのために、交流の前に紹介の仕方（話型）を掲示し児童に示す。交流が難しい児童への配慮としては、掲示した話型と同じものをカードとして手元に置くようにする。聞き手にはシールを持たせ、友達の考えを聞いて、「いいね」と思ったところの文に貼るよう指導する。

また、全体の場では、モデルトークを紹介してよかったところを取り上げ、次のペアとの交流に生かすようにさせたい。

8 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動	評価の観点			評価規準・評価方法
			関心・意欲・態度	国語への読む能力	言語についての知識・理解・技能	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が本の小箱を持ち、お話を読んで思ったことや考えたことを紹介し、興味をもたせる。 ・単元の見通しをもたせる。 	○			相手の思いや感想を分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしようとしている。 (行動観察)
二	2	教材文を読み、題名・作者名・登場人物を読み取り、あらすじをとらえて、本の小箱を作る。		○		言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(行動観察, ワークシート)
	3			○	○	物語と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)
	4	教材文を読み、「友達にやさしくされた時の気持ち」をテーマに、子ねずみたちの行動と自分の経験とを結びつけて考えや思いをまとめて書き、紹介し合う。		○	○	物語と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)
	5			○	○	物語と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)
6	教材文を読み、「友達と心が通い合う時の気持ち」をテーマに、猫の行動と自分の経験と結びつけて考えや思いをまとめて書き、紹介し合う。		○	○	物語と自分の経験とを結びつけて、思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)	
7			○	○	物語と自分の経験とを結びつけて、思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)	
8	教材文を読み、自分の経験と結びつけて、「友情」について考えや思いをまとめて書き、紹介し合う。		○	○	相手に紹介したい内容が分かりやすく伝わるように、自分の思いや考えを整理し、文や文章を読んでいる。(ワークシート)	
9			○	○	物語と自分の経験とを結びつけて、思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)	
三	10	紹介したい本を選び、本の小箱を作る。		○		相手に紹介したい内容が分かりやすく伝わるように、自分の思いや考えを整理し、文や文章を読んでいる。(ワークシート)
	11			○		物語と自分の経験とを結びつけて、思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)
	12	紹介したい本に描かれている「友情」について自分の考えや思いをまとめ、本の小箱を提示しながら、ペアで紹介し合う。			○	相手に紹介したい内容が分かりやすく伝わるように、自分の思いや考えを整理し、文や文章を読んでいる。(ワークシート)
	13				○	物語と自分の経験とを結びつけて、思いや考えをまとめ、友達に紹介しようとしている。(行動観察, ワークシート)

9 目標

「友だちとところが通い合うときの気持ち」をテーマに、猫の行動と自分の知識や経験とを結び付けて、思ったことや考えたことを紹介し合うことができる。

10 学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>さい後に言った「ニャーゴ」を人間の言葉に言いあらわすと、どうなるかかんがえよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分のかんがえを しょうかいし合おう。</p> </div>		
<p>2 本時の学習の流れを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①かんそうカードを読む。 ②ペアトーク 1 ③モデルトーク ④ペアトーク 2 ⑤モデルトーク ⑥学習の振り返り・まとめ</p> </div> <p>3 「感想カード」を声に出して読み返す。</p> <p>4 互いに自分の思いや考えを紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアトーク ・ モデルトーク <p>友達はどんな考えをもっていたかを発表する。</p>	<p>○ 学習の見通しがもてるように本時の流れを提示する。</p> <p>○ 前時の学習での、自分の考えや思いを想起させる。</p> <p>○ 交流の仕方を確認する時は、紹介するだけで終わらないように、話し手と聞き手とのやりとりが一往復半となるような話のつなげ方を示す。</p> <p>○ 聞く視点を確認できるようにシールを持たせ、聞き手が「いいね」と思った文に貼らせる。</p> <p>○ モデルトークから、どんな点が良かったのか、特に返事の場面でよかったところを具体的に示し、2回目のペアと</p>	<p>A: 「友だちとところが通い合うとき」について、自分の経験と結び付けて自分の思いや考えをまとめて紹介し、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に気付いている。</p> <p>B: 「友だちとところが通い合うとき」について、自分の経験と結び付けて、自分の思いや考えをまとめて紹介している。</p> <p>(行動観察, ワークシート)</p>

<p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>6 学習のまとめを聞き、次時の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「友情」をテーマに、猫と子ねずみの関係を自分の経験と結び付けながら、考えたことを書く。 	<p>の交流に生かすようにする。</p> <p>C 児童への手立て： 話型のカードを持たせ、交流の仕方を確認しながら進められるようにする。</p> <p>○ 友達の考えのどんなところが「いいね」と思ったのかを具体的に振り返らせる。</p>	
--	---	--

11 並行読書に用意した本のリスト

	書名	著者名	出版社
1	1ねん1くみ1ばんふしぎ?	後藤 竜二	ポプラ社
2	1ねん1くみ1ばんがंबर	後藤 竜二	ポプラ社
3	ふたりはいっしょ	アーノルド・ローベル	文化出版局
4	あらしのよるに	木村 裕一	講談社
5	あるはれたひに	木村 裕一	講談社
6	きりのなかで	木村 裕一	講談社
7	ソフィーとガッシー	マージョリー・ワインマン・シャーマット	BL 出版
8	ソフィーとガッシーいつもいっしょ	マージョリー・ワインマン・シャーマット	BL 出版